

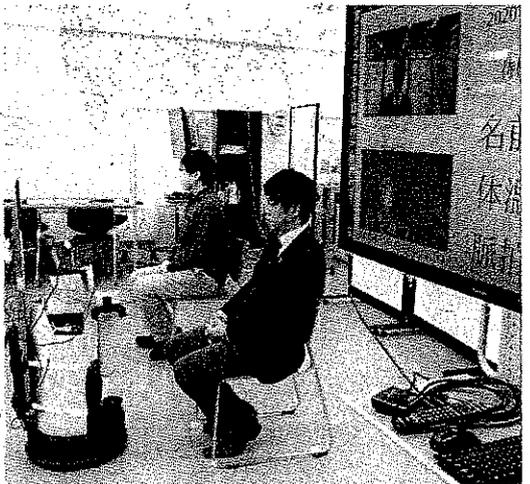
# ロボ活用 介護アプリ開発

【相模原】相模原市では市内中小企業が中心となり、産学官連携によるロボット研究に取り組んでいる。ロボットアプリケーション開発や実証実験の実施を目的とする「さがみはらHSSR社会実装研究会」は、2019年度に開発した高齢者向け「バイタル測定アプリ」を公開した。トヨタ自動車のロボット「HSSR」が移動しつつ高齢者の顔を認識し、体温と心拍数を計測して回る。信頼性に課題は残るが、実用化の可能性は見えてきている。

(相模支局長・石橋弘彰)

## 相模原市、トヨタと共同

さがみはらHSSR研究会は、SRにノートパソコン、カメラ、温度、脈拍センサーを搭載し、HSSRの実用化に取り組み。市内の情報通信系企業からなる、さがみはらIT協同組合（杉本祥一理事長）が中心となり、17年度からHSSRを使った介護現場のサービスマップを公開している。19年度は同組合のメンバーであるクフウシヤ（相模原市緑区）がプログラムを担当。H



## 研究通じ市内産業活性化

ロボットを動かした。ただ、無線通信環境が悪く計測装置も信頼性が取れない事象

HSSRに脈拍センサーと非接触体温測定モジュールを後付けし、検温と脈拍測定を行う実証実験

が相次いだ。だが、同組合のメンバーは無線通信は改善できる」とみる。クフウシヤの大西威一郎社長は「HSSRと外部装置を接続し、サービスを提供できる」と話

が相次いだ。だが、同組合のメンバーは無線通信は改善できる」とみる。クフウシヤの大西威一郎社長は「HSSRと外部装置を接続し、サービスを提供できる」と話